

頁	項目	訂正前	訂正後
253	第6章	<p>◆令和2年度2級共通試験問題</p> <p>〔No. 20〕 作動油に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 低温時に流動性を失わないように、温度による粘度変化の大きいものが望ましい。 環境保全に配慮した生分解性作動油を使用する建設機械もある。 ISO粘度は、油温40℃における粘度の特性により分類されている。 流体の圧力や運動エネルギーの伝達媒体としての大きな役割がある。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 低温時に流動性を失わないように、温度による粘度変化の小さいものが望ましい。 <p>(1)、(2)、(3)の記述は適切である。</p> <p style="text-align: right;">【解答】(1)</p> <p>◆令和元年度(第2回)2級共通試験問題</p> <p>〔No. 19〕 JIS規格で定められている軽油の特性に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 着火性を示す値であるオクタン価は、45以上である。 ディーゼルエンジンの燃料としては、揮発性は必要としない。 低温特性の違いにより1号、2号の2種類に分類されている。 引火点は、40℃から45℃の間にある。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 着火性を示す値であるセタンカ価は、45以上である。 の記述が適切である。 低温特性の違いにより特1号、1号、2号、3号、特3号の5種類に分類されている。 引火点は、45℃以上である。 <p style="text-align: right;">【解答】(2)</p> <p>◆令和元年度(第2回)2級共通試験問題</p> <p>〔No. 20〕 潤滑剤に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作動油の粘度が低すぎる場合は、内部及び外部漏洩の増加を招くことがある。 作動油の粘度が高すぎる場合は、油温の上昇や圧力損失の増加を招くことがある。 ブレーキ液の交換後は、必ずエア抜きをする。 不凍液の希釈水は、天然水を使用する。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)、(2)、(3)の記述は適切である。 不凍液の希釈水は、水道水を使用する。天然水には、硬度の高いものや塩分を含むものがあるためである。 <p style="text-align: right;">【解答】(4)</p>	<p>◆令和2年度2級共通試験問題</p> <p>〔No. 20〕 作動油に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 低温時に流動性を失わないように、温度による粘度変化の大きいものが望ましい。 環境保全に配慮した生分解性作動油を使用する建設機械もある。 ISO粘度は、油温40℃における粘度の特性により分類されている。 流体の圧力や運動エネルギーの伝達媒体としての大きな役割がある。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 低温時に流動性を失わないように、温度による粘度変化の小さいものが望ましい。 (2)、(3)、(4)の記述は適切である。 <p style="text-align: right;">【解答】(1)</p> <p>◆令和元年度(第2回)2級共通試験問題</p> <p>〔No. 19〕 JIS規格で定められている軽油の特性に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 着火性を示す値であるオクタン価は、45以上である。 ディーゼルエンジンの燃料としては、揮発性は必要としない。 低温特性の違いにより1号、2号の2種類に分類されている。 引火点は、40℃から45℃の間にある。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 着火性を示す値であるセタンカ価は、45以上である。 の記述が適切である。 低温特性の違いにより特1号、1号、2号、3号、特3号の5種類に分類されている。 引火点は、45℃以上である。 <p style="text-align: right;">【解答】(2)</p> <p>◆令和元年度(第2回)2級共通試験問題</p> <p>〔No. 20〕 潤滑剤に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作動油の粘度が低すぎる場合は、内部及び外部漏洩の増加を招くことがある。 作動油の粘度が高すぎる場合は、油温の上昇や圧力損失の増加を招くことがある。 ブレーキ液の交換後は、必ずエア抜きをする。 不凍液の希釈水は、天然水を使用する。 <p>〔解説〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)、(2)、(3)の記述は適切である。 不凍液の希釈水は、水道水を使用する。天然水には、硬度の高いものや塩分を含むものがあるためである。 <p style="text-align: right;">【解答】(4)</p>